

2023年4月4日

幹事会委員各位

沖縄県がん診療連携協議会  
幹事長 増田昌人

### グループ指定の組み合わせについて

昨年8月改定の指定要件においても、都道府県がん診療連携協議会の役割の一つとして、「都道府県全体のがん医療等の質の向上のため、次に掲げる事項を行い、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すること」があり、そのために、「地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院との グループ指定 の組み合わせを調整・決定すること。」が求められている。

1 新指針に基づき、新たにグループ指定の組み合わせを調整・決定したい

<組み合わせ>

- (1) 北部地区医師会病院と琉球大学病院
- (2) 県立宮古病院と県立中部病院
- (3) 県立八重山病院と県立中部病院

2 連携に関する今後の展望及び要望について、診療病院側からの資料6-3、4、5に基づき、意見交換を行い、必要に応じて協議会において決議が必要な事項を検討したい

健発 0801 第 16 号

令和 4 年 8 月 1 日

各都道府県知事 殿

厚生労働省健康局長

( 公 印 省 略 )

がん診療連携拠点病院等の整備について

本文 ; 省略

別添

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針

(グループ指定の関連する部分の抜粋)

略語 ; 省略

I がん診療連携拠点病院等の指定について

1 (省略)

2 都道府県は、専門的ながん医療の提供等を行う医療機関の整備を図るとともに、当該都道府県におけるがん診療の連携協力体制の整備を図るほか、がん患者に対する相談支援及び情報提供を行うため、都道府県拠点病院を 1 カ所、都道府県が医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 30 条の 4 に基づく医療計画にて定めるがん医療圏毎にがん診療連携拠点病院を 1 カ所、それぞれ整備するものとする。ただし、都道府県拠点病院及び地域拠点病院にあつては、当該都道府県におけるがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の整備がより一層図られることが明確である場合には、指定の検討会の意見を踏まえ、複数整備することも可能とする。また、がん診療連携拠点病院の無いがん医療圏に当該都道府県のがん診療連携拠点病院との連携を前提に グループとして指定（以下「グループ指定」という。）した、地域がん診療病院を 1 カ所整備できるものとする。また、特定のがんについて、当該都道府県内の最も多くの患者を診療する特定領域拠点病院を整備できるものとする。

3 都道府県の全ての拠点病院等は、協働して都道府県協議会を設置し、都道府県拠点病院は中心的な役割を担うとともに、他の拠点病院等は都道府県協議会の運営に主体的に参画すること。また、拠点病院等の他、地域におけるがん医療を担う者、行政、患者団体等の関係団体にも積極的な関与を求めること。

〈都道府県協議会の主な役割〉

(1) (省略)

(2) 都道府県全体のがん医療等の質の向上のため、次に掲げる事項を行い、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すること。

① (省略)

② 地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院との **グループ指定** の組み合わせを調整・決定すること。

③～⑩ (省略)

4～8 (省略)

## II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

1～7 (省略)

### 8 **グループ指定**

地域がん診療病院と **グループ指定** を受ける場合には、以下の体制を整備すること等により **グループ指定** を受ける地域がん診療病院と協働して当該地域におけるがん診療等の提供体制を確保すること。

(1) 連携協力により手術療法、放射線療法、薬物療法を提供する体制

(2) 標準的な薬物療法を提供するためのレジメンの審査等における支援

(3) 確実な連携体制を確保するための定期的な合同カンファレンスの開催

(4) 連携協力により相談支援や緩和ケアを充実させる体制

(5) 診療機能確保のための支援等に関する人材交流の計画策定及び実行

(6) 診療機能確保のための診療情報の共有体制

(7) 病院ホームページ、パンフレット等による連携先の地域がん診療病院名やその連携内容、連携実績等についてのわかりやすい広報

## III 特定機能病院を地域がん診療連携拠点病院として指定する場合の指定要件について

(省略)

## IV 都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件について

(省略)

## V 特定領域がん診療連携拠点病院の指定要件について

(省略)

## VI 地域がん診療病院の指定要件について

1 都道府県協議会における役割

(省略)

2 診療体制

(1) 診療機能

① 集学的治療等の提供体制及び標準的治療等の提供

ア 我が国に多いがんを中心として、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携して集学的治療等を提供する体制を有するとともに、標準的治療等がん患者の状態に応じた適切な治療を提供すること。

イ 確実な連携体制を確保するため、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と定期的な合同のカンファレンスを開催すること。

ウ (省略)

エ 診療機能確保のための支援等に関し、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との人材交流計画を策定・実行すること。特に、集学的治療等を提供することが困難な場合における専門的な知識及び技能を有する医師等の定期的な派遣の依頼、専門外来の設置等に努めること。

オ～キ (省略)

## ② 手術療法、放射線療法、薬物療法の提供体制の特記事項

集学的治療等を適切に提供できる体制を整備する上で、適宜 グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により特に以下に対応すること。

ア 我が国に多いがんに対する手術のうち、提供が困難であるものについては グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により提供できる体制を整備すること。

イ グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより術中迅速病理診断を提供できる体制を整備すること。なお、当該体制は遠隔病理診断でも可とする。

ウ (省略)

エ 設備や人材配置の点から放射線治療の提供が困難である場合には、グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携することにより放射線治療を提供できる体制を整備すること。

オ～キ (省略)

ク グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携により、薬物療法のレジメンを審査するとともに、標準的な薬物療法を提供できる体制を整備すること。

## ③～⑥ (省略)

(2) 診療従事者 (省略)

(3) その他の環境整備等

必要に応じ グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携する等により、II の2の

(3) に定める要件を満たすこと。

3 診療実績 (省略)

4 人材育成等

必要に応じ グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院と連携する等により、IIの4に定める要件を満たすこと。

5 相談支援及び情報の収集提供

(1) がん相談支援センター

がん相談支援センターを設置し、①、②の体制を確保した上で、**グループ指定**のがん診療連携拠点病院との連携と役割分担によりⅡの5の(1)の③から⑧に規定する相談支援業務を行うこと。

(2) (省略)

(3) (省略)

6 (省略)

7 (省略)

VII 既指定病院の取扱い、指定・指定の更新の推薦手続等、指針の見直し及び施行期日について

1 (省略)

2 (省略)

3 指定の有効期間内における手続きについて

(1) 指定の有効期間において指定要件を満たすことのできない状況が発生した拠点病院等は、文書にて迅速に都道府県を通じてその旨について厚生労働大臣に届け出ること。地域がん診療病院において**グループ指定**の組み合わせが変更される場合においても同様に厚生労働大臣に届け出ること。

(2)～(7) (省略)

4～6 (省略)

グループ指定の組み合わせについて 北部地区医師会病院

1 各連携病院間で連携できている内容

- (1) 肺がんその他当院で対応できないがん種に対する手術療法を依頼
- (2) 放射線治療の必要な方への対応を依頼
- (3) その他すべてのがんに関する患者の診療における専門的な対応への連携・協力・相談
- (4) 月 1 回琉球大学病院の放射線科医を交えたがんセンターの実施
- (5) 年 1～2 回琉球大学病院がんセンターとのカンファレンスにて院内体制の確認と相談
- (6) 定期的な医師のローテーション派遣による人事交流

2 連携に関する今後の展望及び要望等

- (1) 薬物療法に関しては、独自にレジメン審査を行っているが、必要に応じて相談していく
- (2) 緩和的放射線治療に関して、必要に応じて早めに相談できる体制にしていく

グループ指定の組み合わせについて 県立宮古病院

1 各連携病院間で連携できている内容

現在、当院では腫瘍・血液内科、肝臓内科、呼吸器外科の診療応援体制を取りながら各々の悪性疾患に対応しており、当院医師や患者の要望に沿えるような医療を提供している。患者の満足度も高いと思われる。

特に、外科医療に関しては人事交流も行い、カンファレンスなども行いながら低侵襲手術を中心とした低侵襲治療を行っている。

2 連携に関する今後の展望及び要望等

当院は中部病院との組み合わせであるが、現在連携している病院の医師はほとんどが南部医療センターである。恐らくは、地理的な影響によるものと推測される。

今後はこれまでの連携を維持しながら中部病院との連携を強めて患者の満足度が高い医療を提供して行きたいと考えている。

グループ指定の組み合わせについて 八重山病院

1 各連携病院間で連携できている内容

(1) 月 1 回ずつの腫瘍内科医、血液腫瘍内科医の診療応援

当院での診療の難しい、血液がん、希少がん等への対応がある程度可能となり、患者の通院の負担が軽減されている。また、月 1 回といえども、直接診察してもらえるので、患者の安心感も強い。主治医にとっても、一般的な癌であっても、個別な問題に対して気軽に専門家に相談できる事は非常に心強い。

(2) がんに関する講演会へのリモートでの参加

(3) 連携の会議（4 回/年）

※ 当院で対応できない症例の診療に関しては、交通の便の問題等もあり、患者が必ずしも希望しないので、グループ指定先とは異なる病院へ紹介することが多いが、やむを得ないと考えている。

2 連携に関する今後の展望及び要望等

(1) 今後も腫瘍内科、血液腫瘍内科の応援は継続してほしい。

(2) 上述のように、患者は必ずしもグループ指定病院への受診を希望しないが、専門医の応援により、当院での治療を希望する場合もあり、当院での治療の範囲を広げられる。たとえば、頭頸部癌領域では、現在も、口腔外科、耳鼻科、形成外科等の専門医の応援を得て当院で手術を行なっている。周術期の全身管理等の問題もあるが、専門医の応援体制の拡充により、離島で可能な治療の範囲を広げることが検討してほしい。